

NCGM メディアセミナー

日時:2013年11月5日(火) 19時~20時

会場:国立国際医療研究センター国際医療協力研修センター4階 セミナー3,4

今回の話題 糖尿病(11月14日は世界糖尿病デー)

話題提供者

「糖尿病と癌」:能登 洋 第一内分泌代謝科医長

「膵島移植について」:霜田 雅之 膵島移植プロジェクト長

話題1 「糖尿病と癌」:能登 洋 第一内分泌代謝科医長

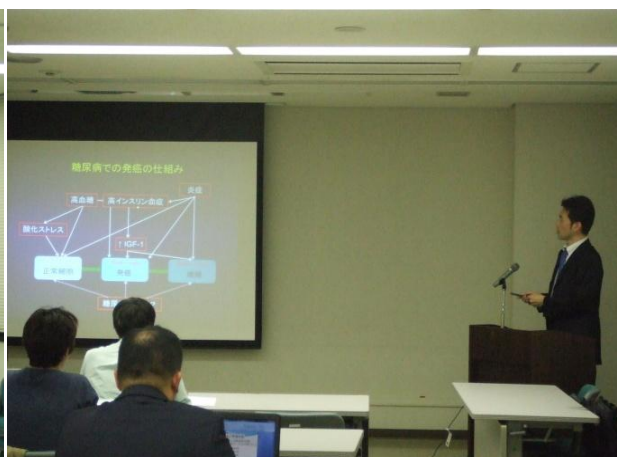
用語や話題の解説

近年、糖尿病と癌の関連性が国内外で注目されています。癌死の多い日本では、糖尿病においても癌は死亡の主因です。糖尿病・癌ともに増加しつつあり、特に高齢者において増加が著しい状況です。両者とも日本の社会において影響力が一層増大しています。

国際的には、糖尿病では癌全般・肝臓癌・子宮体癌・膵臓癌・腎臓癌・大腸癌・膀胱癌・乳癌・胃癌の発症リスクが増加しており、日本人に限定したデータでも、癌全般、特に肝臓癌・膵臓癌・大腸癌の増加を認めています。糖尿病ではさまざまな機序を介して癌のリスクが増加することが示されています。糖尿病治療薬に伴う発癌の可能性についても研究が進んでいますが、現時点ではいずれの薬剤についても結論には至っていません。当センターでは疫学的・遺伝子的アプローチで糖尿病に関する研究を進めています。

このような状況を受け、2013年に日本糖尿病学会と日本癌学会から以下の日本国民向けのメッセージが共同でだされました。

- ・食事療法,運動療法,禁煙,節酒は,糖尿病の人にとって癌の予防につながる可能性がある。
- ・糖尿病の人は性別・年齢に応じて適切に,科学的に根拠のある癌検診を受診することが推奨される。
- ・特定の糖尿病治療薬と癌との関係については,現時点でははっきりした結論は得られておらず,医師の指示に従って,良好な血糖を維持することが大切である。



話題2 「膵島移植について」：霜田 雅之 膵島移植プロジェクト長

用語や話題の解説

「膵島移植」は、インスリン注射治療で血糖値が安定しない1型糖尿病患者さんに対する有効で新しい治療です。自分のインスリンが枯渇してしまった患者さんに、脳死もしくは心停止となったドナーの方から膵臓を提供していただき、特殊な方法でばらばらにしてインスリンを分泌する細胞だけを回収して、血管内に注入して移植するものです。現在日本ではその有効性と安全性を確かめる臨床試験が行われていて、近い将来に標準的な治療になることを目指しています。今年10月には日本で初めての「脳死ドナー膵島移植」が実施され、今後広まっていくことが期待されます。

問題点としては、技術的な点と社会的な点があります。技術面では、膵臓をそのまま移植する「膵臓移植」と比較すると、安全性は優れていますが、有効性がまだ低いことがあります。また、他の移植医療と同様に、生涯にわたって免疫抑制剤を服用する必要があります。社会面としては、特に日本ではドナーの数が大変少ないという点があります。将来技術面が改善されると、希望する患者さんが増えることが予想され、ますますドナー不足が問題になると考えられます。また体制面としては、膵島移植は臓器移植法に規定されていないので、現在組織移植として行われています。この影響で、特に脳死ドナーの場合には他の臓器の移植よりも手続きが複雑になっています。海外、特に米国や欧州ではドナー数も多く、システムも整備されていて、より多くの患者さんが治療の恩恵をうけることができます。



NCGM メディアセミナーは、当センターが取り組む健康・医療の課題を広く共有するために開催しています。専門家からの情報収集、不明事項の確認の場、また、医療に関わる専門家がメディアの方の質問から学び、視野を広げる場とすることが目的です。

今後も NCGM メディアセミナーを開催する予定ですので、皆様のご参加をお待ちしております。